

説教題：「目撃者のあかし」

鍵となる聖句：ヨハネの福音書 20:26-27- 「八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように。」と言われた。²⁷それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

皆さん、おはようございます。キリストはよみがえられました!先週、私はイースターの日曜日のこの伝統的な挨拶について皆さんにお話ししました：「キリストはよみがえられました...イエスは確かによみがえられました。」しかし、それは1日だけの挨拶ではありません。伝統的に、イースター後の数週間、クリスチャンはまだキリストの復活を祝っており、お互いに会うときにこの挨拶を使い続けています。ですから、今後数週間で、説教壇から、そして私があなた方の何人かに一対一で挨拶するときの両方で、あなたは私からこの挨拶をさらに数回聞くでしょう。

先週、私たちはキリストの復活を祝いました。そして私が皆さんと分かち合った聖書箇所では、私はその最初のイースターサンデーの出来事に焦点をあてました。その日、復活された主イエス・キリストを見たさまざまな人々について話しました。 - マグダラのマリヤと他の女性たち、エマオに向かう二人の男、弟子たち、その他の人々。私は彼らの目撃証言、すなわち復活された主を見たという彼らの証に的を絞りました。そのトピックについて私が言うことの出来ることは更に沢山あるので、今日もそのテーマを続け、その最初のイースターの日から来る物語とその日から続く他の物語を更にお話ししたいと思います。

その最初の復活祭の日曜日から、もう少しお話ししますが、今日は実際にはイースターのお祝いの1週間後なので、復活の1週間後に行われる話から始めます。まず、その初日にイエスが彼らに現れたとき、他の弟子たちと一緒にいなかったトマスのお話から始めましょう。「疑いトマス」と呼ばれることもあるこの男性を覚えているかもしれません。彼は、イエスが死からよみがえり、弟子たちの部屋を訪ねたという仲間の弟子たちから聞いた報告を信じるのが難しかったのです。しかし、それから一週間後、イエスが再び彼らに現れ、今度はトマスもイエスに会うことになりました。

今日、イースターの1週間後のこの日曜日は、いくつかの教会の伝統では「トマスの日曜日」と呼ばれることがあります。それは、トマスがこの日に復活した主に会う機会を得たことを事実として認めたものであり、ここには私たち全員のための教訓があります。イースターの夜から始まる彼の話を読みましょう。

ヨハネの福音書 20:24-27 - 「十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らといっしょにいなかった。²⁵ それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。²⁶ 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたにあなたにあるように。」と言われた。²⁷ それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

キリストの十字架刑の記述から、キリストの手が十字架に釘付けにされ、死んだ後、兵士が槍で彼の脇を刺して、彼が死んだことを確認したことを思い出すでしょう。トマスはこれを知っているので、弟子たちが、イエスが死からよみがえられたというこの信じられないような話を彼に話すのを聞いたとき、彼は具体的な証拠を望みます。彼はイエスご自身に会いたい…そして彼は、イエスの体にあるはずの傷を見ることも要求することによって、その人が偽者ではないことを確認したいと思っています。その時、トマスは、その報告を信じると言います。

それは私たちの多くと同じですね。証拠が欲しい。具体的で決定的な証拠を見たいのです。しかし、人生は必ずしも私たちが望むすべてを与えるわけではありません。時には、ほかの人の証に頼らざるを得ないこともあります。私はこのようなものです - 私はすべての証拠を知りたいのですが、あなたが必ずしもあなたが望む欲求を得るとは限らないことを学びました。私自身の証拠探しについては、今日のメッセージの後半で詳しく説明します。今、トマスの話に戻り、さらにいくつかの考えを強調したいと思っています。

この記述の中で、イエスは、疑いトマスに特別な同情を抱いていることに気づきます。イエスはトマスに注意を向け、傷を調べるようにと招かれます。トマスは以前、イエスの体の傷を見て触れることができない限り、イエスが本当に死からよみがえったとは信じないと主張していました。それで、イエスは彼にそのチャンスを与えます。

27 節をもう一度見ましょう - 「それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

聖書は、トマスが実際にイエスの傷に触れたとは言っていません。イエスに直接会うだけで、愛する主が本当に死からよみがえったことを確信できたと思います。その後、トマスは 28 節でこの感嘆を述べました - トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」出会いは圧倒的でした。主は本当に死からよみがえられました。トマスは彼を

「神」とさえ呼んでいます - イエスの宣教のいくつかの時点で、彼は普通の人間ではなく、神であるというしるしはすでにありました。イエスは神の御子であり、天の御父と同じ性質をお持ちです。トマスはこれを認め、主イエスを「神」と呼びます。

27節の最後をもう一度見ましょう - 「…信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」ここに、トマスそして私たちの誰に対してもイエスの招きがあります。「…信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」さっき起きた出来事の信じられないほどの出来事のために、イエスの信者の多くは、これらのことが信じられないほどであることに気付いた瞬間がありました。そうあってもいいのです。不信仰の瞬間や疑いの瞬間があっても大丈夫です。

あなたが持ちたくないのは、不信仰の固い心です。一部の人々は心をかたくなにし、信じることを拒否しました。パリサイ人や宗教指導者の多くはこのようなものでした。伝道が成長する今後数年間で、クリスチャンの集会に出席する共同体の中の何人かの人々は、何らかの理由で彼らの心が頑なになり始めました。

ヘブル人への手紙の中に、そのような人々への警告があります。ヘブル人への手紙 3:12 - 「兄弟たち。あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。」罪と不信仰のために心が冷たく硬くなったら注意してください。不信仰の心は、あなたが天国を逃すことを意味します。

トマスや他の弟子たちが経験した疑いは、頑なな心から来たものではありません。彼らの疑念は一時的なものでした - 彼らは新しい情報に心は開き続けていました。若い頃、私はキリスト教のメッセージについていくつかの深刻な疑問を抱いていました。そして、とても役立つ本を見つけました。この本のタイトルは「ダウト（疑い）」で、オス・ギネスによって書かれました。彼は私の人生を通して私の心に残る重要な事を述べました。彼は、疑いは不信仰とは異なると言いました。不信仰とは、信じることを拒むこと、信じないという決断です - それは危険な所となります。しかし、疑いは単に疑問です... 疑いは躊躇し、何を信じるべきかわからない... 疑いはオープンマインドのままです。疑いには答えが必要な疑問がいくつかあります。疑いを持つことは罪ではありません。疑問がある場合は、オープンマインドを保ち、真実を見つけようとし続けてください。この本は、疑いを持つことに罪悪感を感じないようにし、信仰をより安定させる助けとなりました。

私自身の経験を少しお話ししましょう。先週、私は10代の頃、キリスト教が真実であるかどうかについてさまざまな疑問に苦しんでいたとお伝えしました。気になったことの一つは、学校の理科の授業で教えられていたことです。私たちは進化論を教えられています。人類はより低い形態の生命から進化したと。まあ、それが本当なら、創造主の神は存在せず、聖書のメッセージを信じる理由もありません。大学時代、私は聖書の主張と進化論の主張の両方を熱心に調べました。一部始終をお伝えできればいいのですが、今日はそのよ

うな時間がありません。しかし、私はいくつかのハイライトをお分かちしましょう。私は懐疑論と批判で聖書に近づきました...そして私は懐疑論と批判で進化論にアプローチしました。UCLAでのコースワークの一環として、私は実際に進化論のコースを受講しなければなりませんでした。理論にさまざまな問題があることに気づきました。そして、私には正直な教授がいました - 彼は進化論を信じていましたが、このトピックに関するいくつかの科学記事の中で行われていた、当時の声明についてもいくつかの不満を持っていました。さて - 進化論でさえも間違いがあり、非科学的なことを言います。そして他のこともありました。そして、進化論は理論であり、事実ではないことに気づきました - 何百万年も前に人間の進化の過程を観察する人間はいませんでした。進化論は実際には単なる推測です。この理論には実際には多くの問題があり、今日は説明できませんが、近年、キリスト教徒ではない科学者でさえ、その理論の問題を指摘する信頼できる科学者がかなりいることを知りました。

一方、大学時代は聖書も批評していました。しかし、この書物は、創造、洪水、アブラハムへの召し、出エジプト、イスラエルの国の神の取り扱い、イエスのミニストリー、イエスの死と復活、教会の爆発的な成長など、人々の生活における神の行動についての人々の証言が多くあることに気づきました。しばらくの間、私はこれらの証言の意味に抵抗し、私が読んでいたものを退けようとしていました。私の懐疑論は深く根ざしていましたが、ある日、私は新聞の見出しをちらっと見た時、懐疑論に対する私の反応は、人がどれほどばかげているかを示しているのを知りました。見出しは米国大統領の行動についての報告でした - 当時の大統領はジミー・カーターでした。どのような行動が報告されていたかは覚えていませんが、「米国大統領であるカーターという男が本当にいることをどうやって知ることができますか？ 私は彼をこの目で見たことも、会ったこともないのです。もしかしたら、これらのニュース報道は、何らかの形で私を騙そうとしているのかもしれない」「疑いトマス」のように、私はこの男を直接見て体験できるように要求していました。

さて、新聞の見出しへの反応を読んだ瞬間、私は自分の懐疑論が遠くに過ぎさったことに気づきました。誰かが私を騙そうとしていましたか？ 実際、私は自分が愚かだと思いました。ニュースメディアは完璧ではありませんが、いくつかのメディアは、数年間、この男について報告し、ニクソン大統領やフォード大統領のように、彼らの前任者についても報道していました。政治家の行動は、私の家や学校でよくある会話の話題でした。これらの男は本物です。私はニュース報道の一般的な信頼性に信頼を置かなければなりませんでした - 完璧ではありませんが、一般的に信頼できます。

同じように、イエス・キリストの復活の目撃者の証が信頼できることを学びました。これらの男性と女性は、彼らが見たり聞いたりしたことに納得しました。それは彼らの人生を変えました。それは人類の歴史の流れを変えました。これらの男性と女性の多くは彼らのメッセージのために死ぬことをいとわなかったのです。そして彼らはそれを徹底的に信じました。彼らの証を信頼することは理にかなっていることを学びました。

イエスとトマスの会話に戻りましょう。ヨハネ 20:27 の後半で、イエスは「信じないのではなく、信じなさい」と言われました。トマスは不信仰を捨てて、よみがえられた主を信じるように招かれています。トマスは 28 節で「わが主、わが神!」と叫んでいます。

ヨハネの福音書 20:29 を読みましょう - 「イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」「見ずに信じる者は幸いです。」 あなたと私、そして過去 2,000 年間にキリストに信仰を置いた何百万人もの人々は幸いです - 私たちはイエスを直接見ることはできませんでしたが、このメッセージとその人生を変える力を信じています。

ヨハネは、20 章 30-31 節で彼の福音書を終えます - 「この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。³¹しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」 あなたはイエスについてもっと知りたいと思うかもしれませんが、新約聖書に書かれていることは、私たちが神を知り、キリスト・イエスに見られる救いを経験するのに十分です。ここに書かれていることは、キリストへの信仰を育むのに十分です。

さて、今日のメッセージの折り返し地点に達しました。復活の目撃証言の話をもっと皆さんと共有したかったので、今度はこれらの話のいくつかをお話しします。

先週、私はマグダラのマリアと他の女性たちの話から始めました。彼らは復活の最初の証人であったキリストへの忠実で愛にあふれた追随者でした。4つの福音書の記述はそれぞれ、物語のさまざまな側面に焦点を当てています。まず、マタイが書いていることを見ましょう。マタイの福音書 28:1-2 - 「さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方、マグダラのマリヤと、ほかのマリヤが墓を見に来た。²すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。」

天使が、その婦人たちにメッセージを与えました。イエスについて、天使は 6-7 節で言いました - 「ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんください。⁷ですから急いで行って、お弟子たちにこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あなたがたは、そこで、お会いできるということです。では、これだけはお伝えしました。」

物語は 8-10 節と続きます - 「そこで、彼女たちは、恐ろしくはあったが大喜びで、急いで墓を離れ、弟子たちに知らせに走って行った。⁹すると、イエスが彼女たちに出会っ

て、「おはよう。」と言われた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。¹⁰すると、イエスは言われた。「恐れてはいけません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えるのです。」

東方正教会の伝統では、マグダラのマリヤは特別な称号を持っています。彼女は「使徒たちへの使徒」と呼ばれています。主イエスが墓からよみがえられたという良いたよりを使徒たちにもたらしたのは彼女です。

4つの福音書の記述すべてが、復活の知らせを最初に報告したのは女性であると私たちに告げていることは非常に注目に値します。当時、女性の証言は法廷で認められる信頼できる証拠とは見なされていなかったのも、私はそれを注目に値すると呼びます。それでも、それはキリストの復活の物語の一部です。この話が真実であると確信できる理由の一つは、もしそれがでっち上げだったとしたら、福音書の著者は女性が最初の証人であるとは言わないだろうということです。確かに、キリスト教の後の異教徒の批評家は、誰が女性の証言を信じるだろうかという理由で福音のメッセージを批判しようとしていました。しかし、これは女性が最初の目撃者であったという話の一部です。それは否定できません。実際、私たちはその物語を受け入れています。そして、キリスト教が世界最大の宗教であるという事実は、このメッセージが真実であるという事実の証だと思えます。

マルコの福音書に書かれていることを見ましょう。マルコの福音書 16:9-11 - 「さて、週の初めの日の朝早くによみがえったイエスは、まずマグダラのマリヤにご自分を現わされた。イエスは、以前に、この女から七つの悪霊を追い出されたのであった。¹⁰マリヤはイエスといっしょにいた人たちが嘆き悲しんで泣いているところに行き、そのことを知らせた。¹¹ところが、彼らは、イエスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようとはしなかった。」

さて、この信じられないほどの知らせを信じることを拒否していたのはトマスだけではありません。マグダラのマリヤが報告したこの最初の弟子たちのグループも同様に、信じられないほどの知らせを受けました。

しかし、弟子の何人かは知らせに基づいて行動しました。ヨハネの福音書が言っていることを読んでみましょう。ところで、ヨハネの福音書を読むと、ヨハネは自分の名前を挙げるのが好きではないことに気付くでしょうが、彼はこの物語で言及されている2番目の弟子です。

ヨハネの福音書 20章3-8節を読みましょう。 - 私はこの物語が好きです。 - 「そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。⁴ふたりはいっしょに走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。⁵そして、からだをかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中にはいらなかった。⁶シモ

ン・ペテロも彼に続いて来て、墓にはいり、亜麻布が置いてあって、⁷ イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。⁸ そのとき、先に墓についたもうひとりの弟子もはいて来た。そして、見て、信じた。」

これはかなりの光景でした。ヨハネは空の墓と亜麻布を見ました。本当に驚くべき出来事が起こりました。ヨハネはこの時点でイエスを見ませんでした、何か大きなことが起こったと信じていました。

その日のある時点で、イエスご自身がペテロに現れました。私たちはその物語が語られた話を持っていませんが、それが起こったと他の場所で言われています。先週、エマオに旅行した二人の男性について少しお話ししました - マルコ 16:12 とルカ 24:13-35。男たちはイエスだと気付かずに、イエスと一緒に道を歩きました。ルカ 24:30-35 節を読みましよう - 「彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。³¹ それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。³² そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明してください。私たちの心はうちに燃えていたではないか。」³³ すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、³⁴ 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。」と言っていた。」

彼らは以前、シモン・ペテロが復活したイエスを見たという報告を聞いていました。これらの人々は、自分たちもイエスの前にいることに気づくと、弟子たちに話すためにエルサレムに急いで戻りました。彼らは興奮して、イエスが死からよみがえり、シモンに現れたという報告は確かに真実であると彼らに報告しました!

コリント人への手紙 第一 15 章では、ペテロが言及されていますが、今回は「岩」を意味するペテロの名前のアラム語であるケパという名前を使用しています。私は先週、皆さんにこれらの聖句を読みましたが、もう一度見てみましょう。使徒パウロがコリント人への手紙 第一 15:3-8 で言っています。「³私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、⁴また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、⁵また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。⁶その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。⁷その後、キリストはヤコブに現われ、それから使徒たち全部に現われました。⁸そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現われてくださいました。」

5 節で、キリストが 12 人の弟子たちのグループに現れる前にペテロ (ケパ) に特別な御姿を現されたことに注目してください。その外観の詳細はわかりません - 私たちは本当に

知る必要はないと思います、さもなければ神は私たちのためにその物語を書き留めていたでしょう。6節は、イエスが500人以上の兄弟にも現れたと言っていますが、パウロがコリントの信徒に手紙を書いているとき、そのほとんどはまだ生きています - つまり、彼らがそうすることを選択した場合、コリントの信徒は目撃者からこの報告を確認するためにこれらの500人の兄弟のいずれかを探することができます。7節で、ヤコブがイエスの特別な訪問を受けていることに注目してください。ヤコブはイエスの半兄弟でした - 彼はマタイ 13:55 とマルコ 6:3 で言及されています。そして明らかにイエスの地上での宣教の間、彼の家族は実際には彼の信者ではありませんでした。しかし、ヤコブは復活後にキリストの特別なお姿と出会います。そして使徒 12:17 では、弟子の一人として最初に言及されています。それから使徒 15 章、使徒 21 章、ガラテヤ 1 章と 2 章では、ヤコブはエルサレム教会の指導者のようです。この人は、ヤコブの手紙を書いた人です。さて、コリント人への手紙 第一の箇所を振り返ってみると、8節で、最後にイエスがパウロに現れたことがわかります - 使徒 9 章でその劇的な物語を読むことができます。

エルサレムでの最初の夜、イエスが集まった弟子たちに現れた場面に戻りましょう。その経験は明らかに彼らにとって当惑させられるものでした。ルカ 24:36-39 - 「これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。³⁷ 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。³⁸すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。³⁹わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」

彼らは驚き、怯え、疑いました。彼らは霊を見たと思った。しかし、イエスは彼らに彼の傷を調べるために、彼に触れることを勧めました。そして、それでこれが霊ではないことを証明しました。ああ、これがトマスが後に同じことをすることを主張した理由です：弟子たちはイエスが彼らに何をするように勧めたかを彼らに話したに違いありません。彼らはこれが霊ではないことを見ることができました。先週、私は皆さんのために 41-43 節を読みました。そこで彼らはイエスに魚を与えて、彼がそれを食べました、彼が実際の体を持っていて、霊ではないことを示しました。

このシーンをマルコがどのように描いているのかを見ましょう。マルコ 16:14 - 「しかしそれから後になって、イエスは、その十一人が食卓に着いているところに現われて、彼らの不信仰とかたくなな心をお責めになった。それは、彼らが、よみがえられたイエスを見た人たちの言うところを信じなかったからである。」主は彼らの不信仰と、主の復活に関する最初の報告を信じることを拒否したことを叱責されました。しかし、彼はまだ彼らの可能性を見だし、世界の人々に届くためにそれらを使いたいと思っていますので、主は彼らにも憐れみ深いと思います。次の節、15節で言われていることを見てください。 - 「それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」これが、全世界に福音を宣べ伝えるように彼らを任命された最

初の声明です。彼らの弱さにもかかわらず、イエスはこの弟子たちのグループが福音のメッセージを世界中に広めることを望んでおられることは私にとって驚くべきことです。

その後、天使が最初に弟子たちにそうするように女性に指示したように、彼らはガリラヤに行きます。そこで、イエス・キリストは再び使徒たちに任務を委ねられます。マタイ 28:18-20 - 「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。¹⁹それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、²⁰また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」ここで、イエスは弟子たちにすべての国の人を弟子とするように命じています。新約聖書を読み、これらの使徒たちがローマ帝国全体に福音を広めるのを見て、教会の歴史を読み、宣教師が地の果てまでメッセージを広めるのを見て、そして現代の教会がミニストリーの働きを行うのを見てた時、イエス・キリストが救いのメッセージを世界中に広めるために私たち不完全な人間を選んでくださったことに驚かされることは決してありません。私たち不完全な人間。それが、あなたと私を通して、イエスがこの仕事を成し遂げるために選んだ方法です。私たちは他の人にメッセージを広めるだけでなく、そうするとき、神はすべてのクリスチャン、つまりあなたと私の心の中で働いて、私たちが霊的な賜物を行使し、ミニストリーの働きにおいて私たちの役割を果たすときに、私たちの中に神の性格を形成しています。

今日の説教で、復活された主であり救い主であるイエス・キリストを見た人々のさまざまな証を皆さんと分かち合いました。これらはこれらの人々にとって人生を変える出来事でした。そして、彼らは福音の物語を広め、教会を設立した時に歴史の流れを変えました。

今日の説教を使徒ヨハネの言葉で締めくくりたいと思います。私は、彼の第一の手紙の冒頭に本当に感動しました。ヨハネの手紙 第一 1:1-3 を読みましょう。 - 「初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、⁻² このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現わされた永遠のいのちです。私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。」

ヨハネや他の使徒たちは、自分たちが見たり、聞いたり、触れたりしたことについてのメッセージを広めました。いのちのことば、主イエス・キリストの福音について。わたしたちは永遠の命を持つことができます。わたしたちは創造主である神とその御子イエス・キリストと交わりを持つことができます。そしてヨハネは私たちがイエスの弟子たちとの交わりに招きます。

先週、神が私たちに「和解のミニストリー」を与えてくださったことを思い出してください-それはコリント人への手紙 第二 5 章 18-19 節にあります。それは、私たちの創造主とどのように和解するか、そしてどのように互いに和解するかについてのメッセージです。今日、私はあなたがたのために、私たちが神、神の御子、そしてイエスの弟子たちと交わりを持つというヨハネの願いを読みました。これは、罪の罰を支払い、死に打ち勝ったイエス・キリストの死と復活によって可能になりました。これが私たちが世界にもたらす和解のメッセージです。これは人々を変え、世界を変えるメッセージです。この和解を受け入れ、神と神の民との交わりの中で、人生を最大限に生きることができますように。